

《専門教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	NTAL41002
担当者氏名	岡本 洋之	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育を、歴史、社会、思想など多様な視点から検討し、教育と社会との関係や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《授業外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《テキスト》

授業中にプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamoto@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

教職教養 教育原理（教員採用試験情報研究会編、一ツ橋書店）

《備考》

適宜グループワークを行う。また担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
	主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のあり方と関連づけることができる。
	家族や社会による教育の歴史を理解している。
	子どもの権利と福祉について理解している。
	生涯学習の理念を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	60
発表・実技	0
授業内課題	40
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	人間とは何だろう	オリエンテーション（授業概要及び評価に関する説明）、人間の特質と教育	教育に関する日常の思いの整理	90分
2	教育とは何だろう	教育の概念と本質	教育とは何か	90分
3	人間と教育の関係を考えよう	子どもの発達と教育	子どもの発達	90分
4	教育への理解を深めよう	教育の目的、形態と機能	教育の諸相	90分
5	主な西洋教育思想とその系譜を見よう①	子ども観の変遷、代表的思想家とその教育思想	中世西洋教育思想	90分
6	主な西洋教育思想とその系譜を見よう②	代表的思想家とその教育思想、教育思想と現代の教育	近代西洋教育思想	90分
7	公教育制度の成立と発展を見よう①	教育・学校の起源と歴史、近代公教育の誕生	近代学校教育の始まり	90分
8	公教育制度の成立と発展を見よう②	日本における明治期以前の教育、近代学校制度の成立	寺子屋以後の日本の教育	90分
9	教育への理解をいっそう深めよう	教育の内容と方法	たとえば水道方式等の概要	90分
10	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう①	戦前まで	戦前までの日本教育史概要	90分
11	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう②	戦後	戦後日本教育史の流れ	90分
12	子どもの実態と教育の関係を考えよう①	教育における「ケア」	現在の子どもたちの様子	90分
13	子どもの実態と教育の関係を考えよう②	児童の福祉・保護と教育	教育と福祉の関係	90分
14	未来の教育への展望を探ろう	生涯学習	生涯学習とは何か	90分
15	本授業の総括	現代社会と教育、本授業の総括	これまでに扱った内容の整理	90分

《専門教育科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	NTAL41001
担当者氏名	佐野 秀行	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

授業中にプリントを配布する

《参考図書》

別途、リーディングリストを配布する。

《授業外学習》

配布された資料を読み、授業内の課題に取り組む準備をする。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時にコメントのカード（大福帳）を記入してもらい、次の日に返却することで質問や意見のやり取りをする。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
	教員養成と教員免許制度について理解している。
	教員の任免と服務について理解している。
	教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
	教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	NTAL41005
担当者氏名	古田 薫	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業外学習》

- ・授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習する。
- ・授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意

《テキスト》

山崎博敏編『教育の制度と社会（改訂版）』協同出版、2019年。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業後にリアクションペーパーを提出し、講義内容を適切に理解しているかどうか確認する。

《参考図書》

1) 『解説教育六法 2021年度版』三省堂。 2) 古田薫、山下晃一（編著）『よくわかる！教職エクササイズ⑦ 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020年。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション等を実施する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。
	教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
	教育行政の仕組みや学校制度について理解している。
	学校運営について理解している。
	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に取り組む意欲を持つ。 ・教育制度と教育行政の基本原則について理解する。	まとめノートの作成	45分
2	教育制度の発展	・欧米の教育制度の発展を理解する。 ・我が国の教育制度の発展を理解する。	まとめノートの作成	45分
3	憲法と教育基本法	・憲法における教育に関する規定を理解する。 ・教育基本法の性質と意義、内容を理解する。	まとめノートの作成	45分
4	教育を受ける権利と義務教育	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助等の概要を知る。	まとめノート、e-ラーニング	90分
5	学校制度①小学校と中学校	・法規上の学校の定義と種類、目的・目標を知る。 ・小学校と中学校の教育と組織の特徴を理解する。	まとめノートの作成	45分
6	学校制度②高校	・高校の教育と組織の特徴を理解する。	まとめノート、e-ラーニング	90分
7	学校制度②特別支援教育	・特別支援教育の意義を理解する。 ・さまざまな特別支援教育の場とそこでの指導体制を理解する。	まとめノートの作成	45分
8	教育行政の仕組み①国	・文部科学省の組織と役割を理解する。 ・国の教育政策とその決定過程と教育財政の仕組みを理解する。	まとめノート、e-ラーニング	90分
9	教育行政の仕組み②地方	・都道府県と市町村の教育委員会制度を理解する。 ・国と地方の教育行政と教育財政の関係を理解する。	まとめノートの作成	45分
10	学校の組織と経営①	・学習指導要領とは何かその意義と内容を理解する。 ・学校の教育課程編成を理解する。	まとめノートの作成	45分
11	学校の組織と経営②	・教育上の諸問題と児童生徒へのさまざまな懲戒を理解する。 ・生徒指導の在り方について考える。	まとめノートの作成	45分
12	学校の組織と経営③	・学校の管理運営組織と学校評価を理解する。 ・地域連携、危機管理を踏まえたチームとしての学校経営を理解する。 ・確認小テスト2	まとめノート、e-ラーニング	90分
13	教職員制度	・教職員の服務と義務、職務を理解する。 ・教職員の人事管理と懲戒を理解する。	まとめノートの作成	45分
14	教員の職務	・教職員の職務遂行に必要な資質を理解する。 ・教職員のたえざる資質向上の必要性を理解する。	まとめノート、e-ラーニング	90分
15	21世紀の教育に向けて	・外国の教育改革の動向を知り、日本の教育の在り方を考察する。	まとめノートの完成	75分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	NTAL41004
担当者氏名	大平 曜子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を修得し、教育における心理学的領域の理解を通して学習活動を支える人間科学的な視点を養うことができる。授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、それぞれの専門領域の教育に応用する方法を修得する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。

《授業外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理する。授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通す。専門用語や関心を持った事項は詳しく調べておく。

《学習状況・理解度の確認》

レポートはコメントを付して返却する。疑問や質問には個別に回答すると共に、次回の授業で補足説明をして理解を確認する。

《備考》

グループワークを数回実施する。「授業の振り返り」の記入し、提出することで参加状況を確認する。授業担当者は、教職経験をもつ実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	発達の概念と発達理解の意義を理解し、教育の観点から各発達段階を理解し課題を見出すことができる。
	学習の概念を理解し、代表的学習理論から学習の考え方をまとめ、発表することができる。
	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。
	主体的な学習活動を支える学習指導法を専門科目と関連させて理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、本授業受講の意味を確認する。	次週の授業内容の確認	45分
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。	配布プリントを読み理解する	60分
3	発達の基礎理論 (1)	発達原理、発達の諸理論について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
4	発達の基礎理論 (2)	発達の様相、成熟と発達を理解し、遺伝と環境などの関係因子を考える。	配布プリントを読み理解する	45分
5	発達の基礎理論 (3)	発達の過程における段階的区分を理解し、各段階の発達内容や課題を確認する。	配布プリントを読み理解する	45分
6	学習の基礎理論 (1)	学習の成立、学習の過程、知能と学力について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
7	学習の基礎理論 (2)	学習の理論、学習の概念	配布プリントを読み理解する	45分
8	教育評価 (1)	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、グループを形成し、評価観点を決定して相互評価を行う。課題の提示	課題のための資料の収集	90分
9	学習の基礎理論 (3)	記憶の種類と特徴、記憶と学習	課題の作成	120分
10	学習の基礎理論 (4)	動機づけとやる気、意欲と学習活動 動機づけを高める工夫	課題の作成	120分
11	教育評価 (2)	学力と知能と性格の測定 測定と評価の実際	配布プリントを読み理解する	45分
12	教育評価 (3)	相互評価の実際	配布プリントを読み理解する	45分
13	学習指導法	発見学習、プログラム学習、グループ学習等、授業の最適化	配布プリントを読み理解する	45分
14	教師と児童生徒のコミュニケーションと集団の理解	コミュニケーション能力と対人関係、教師が及ぼす影響力「集団」のもつ促進機能・抑制機能、	配布プリントを読み理解する	60分
15	教育における心理学の働きまとめ	教育相談、人間関係、これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明する。	授業内容の整理 試験対策	120分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論			科目ナンバリング	NTAL42010
担当者氏名	杉田 律子			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

特別支援教育総論（守屋國光編、風間書房）

《学習状況・理解度の確認》

小テストや課題の添削、コメントを付けて返却を行う。また、オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストについては、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い教員になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
	外国籍や貧困など特別な教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	10
レポート	
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援の必要な子どもの理解①特別支援教育の理念	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援の必要な子どもの理解②特別支援教育の制度	特別支援教育の歴史の変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動	事前学習プリント	45分
3	視覚障害・聴覚障害の理解	視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程	学習のまとめプリント	45分
4	視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法	視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。	事前学習プリント	45分
5	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	事前学習プリント	45分
6	知的障害児の教育課程および支援の方法	知的障害児の教育課程や支援の方法	学習のまとめプリント	45分
7	肢体不自由児の教育課程および支援の方法	肢体不自由児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
8	病弱児の教育課程および支援の方法	病弱児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
9	発達障害の理解	発達障害児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
10	発達障害児教育の教育課程および支援の方法	自閉症、ADHD, LDなどの発達障害の特性とその支援方法について理解する。	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援の教育課程と個別支援計画	通常学校における、感覚障害のある子どもに対する個別支援、自立支援の方法について理解を深める。	事前学習プリント	45分
12	特別支援の教育課程および支援の方法	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性	事前学習プリント	45分
13	家庭支援と教育相談	保護者に対する支援と教育相談 心理的アプローチ	学習のまとめプリント	45分
14	特别的教育的ニーズのある子どもの把握と支援①	障害はないが特别的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	事前学習プリント	45分
15	特别的教育的ニーズのある子どもの支援②/まとめ	母国語や貧困の問題等により特别的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	NTAL42011
担当者氏名	佐野 秀行	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育課程の構造と基礎的な編成原理、その意義、基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解を深め、学校の教育課程の管理と運営をカリキュラム・マネジメントの視点から考察する。事例を用いた学習、グループディスカッション等を通して、現代的課題についての考察と意見交換を行い、理解を深める。

《授業外学習》

参考資料を読んで講義の予習ノートを作成する。わからない用語を事前に調べ、用語集を作成する。指導案作成やマイクロティーチングの準備をする。

《テキスト》

文部科学省『中学校学習指導要領』。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時にコメントのカード（大福帳）を記入してもらい、次の日に返却することで質問や意見のやり取りをする。

《参考図書》

文部科学省『高等学校学習指導要領』

《備考》

必要に応じてグループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し、考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
	学習指導要領の内容と法的性格について理解している。学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
	学校における教育課程の編成とカリキュラムマネジメントについて理解している。
	主体的・対話的で深い学びと授業の中でどのように実現していくかを理解している。
	社会に開かれた教育課程、教科等横断的教育課程について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	
レポート	0
発表・実技	
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 教育課程とは	・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性、法的位置づけについて理解を深める。	プリント	45分
2	教育課程編成と教育目的・目標、学習指導要領の性質	・学校教育、各学校段階の目的・目標を知る。 ・学習指導要領の法的位置づけや学校教育における役割を理解する。	プリント	45分
3	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷①	・学力観、学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1998年）を知る。	プリント	45分
4	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（～2008年）を知る。	プリント	45分
5	新学習指導要領の要点	・2017年学習指導要領の基本理念と改訂の方針、改訂の要点を知る。	プリント	45分
6	学校教育における食に関する指導と保健指導	・学校における食に関する指導と保健指導の目的と計画の全体像について知る。 ・食に関する指導と保健指導の指導計画の立て方を習得する	プリント	45分
7	カリキュラムの諸形態	・カリキュラムの歴史、カリキュラムの類型とその特徴を理解する。 ・教科横断的なカリキュラムの在り方を検討する。	プリント	45分
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。	プリント	45分
9	カリキュラム・マネジメント	・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、意義と実際を理解する。	プリント	45分
10	教育課程と評価	・教育課程における評価の意義と評価計画について理解する。 ・教育課程の評価をカリキュラムマネジメントに位置付けて理解する。	プリント	45分
11	教育課程と主体的・対話的で深い学び	・中学校・高等学校における教育課程で、主体的・対話的で深い学びをどのように実現するかを考える。	プリント	45分
12	社会に開かれた教育課程、特色ある教育活動	・社会に開かれた教育課程、特色ある教育活動の意義を理解する。 ・教育課程における地域との連携について考える。	プリント	45分
13	食に関する指導の計画と実践	・食に関する指導の計画を立て、模擬授業を行う。 ・授業について検討し、よりよい指導に間然する。	プリント	60分
14	保健指導の計画と実践	・保健指導の計画を立て、模擬授業を行う。 ・授業について検討し、よりよい指導に間然する。	プリント	120分
15	教育課程改革：社会の変化と教育課程	・教育課程改革の動向を理解する。 ・社会の変化と教育課程の在り方について考察する。	レポート	120分

《専門教育科目》

科目名	道徳教育の理論			科目ナンバリング	NTAL42012
担当者氏名	林 敦司			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

学校教育全体を通じた道徳教育について理解するとともに、健康や食育に関わる教育活動を踏まえながら、道徳教育及び道徳科の特質や内容を理論と実践面から学び、専門性と実践的指導力を身に付ける。また、道徳教育の基本概念である道徳性の育成について理解し、カリキュラム・マネジメントに基づき道徳教育を学校の教育活動全体の中でどのように進めていくのかを考察する。学習指導案の作成や模擬授業等を通して、職務の専門性を生かした授業構想力を習得する。

《授業外学習》

- ・ 事前にテキストの指定箇所を通読し、疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- ・ 授業の後にノートを整理するなど、自己学習による補充を行うとともに、授業中での発表や話し合いから得られた学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。
- ・ 本講義の道徳教育の学びが、自身の専門分野に生かされるように積極的に学習を進めてほしい。

《テキスト》

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物にコメントを付して指導するとともに、返却後に要点の解説を行うことで知識の確実な定着を図る。

《参考図書》

1. 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版 2. 『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発研究所

《備考》

演習ではグループ討議や発表を実施する。主体的に授業に参加することを期待する。担当者は、教諭及び管理職として学校勤務や教育実習指導歴のある実務経験者である。8週の授業計画である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	道徳の歴史や意義を踏まえて、児童生徒の発達段階に応じた道徳教育について主体的に考えることができる。
○	履修カルテ参照	道徳教育の要としての道徳科の役割を知り、カリキュラム・マネジメントについて説明できる。
◎	履修カルテ参照	道徳教育における栄養教諭の役割を理解し、職務と関連付けて主体的に考えることができる。
○	履修カルテ参照	教材吟味・指導過程・指導方法などを理解して、栄養教諭の専門性を生かした学習指導案を作成することができる。
○	履修カルテ参照	授業構想についての発表・交流によって、実践的な指導力を身に付けることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	0
授業内課題	30
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	道徳教育の基本型と歴史の変遷	道徳教育とは何かを、理論的・歴史的・実践的な側面から考え、学習指導要領の変遷も含めて理解する。	テキストp.1～p.9 道徳授業想起	45分
2	道徳性の発達と道徳学習	道徳性の発達を踏まえて、現代社会における様々な課題を再認識し、学習指導要領に則した道徳教育の進め方について理解する。	配布資料通読	45分
3	道徳教育の基本構造と道徳科の目的及び内容	道徳教育の基本構造を踏まえて、学習指導要領に則した道徳科の意義や目的、内容を理解する。	テキストp.22～p.25 p.102～p.106	60分
4	内容項目とカリキュラム・マネジメントに基づく評価	学習指導要領における内容項目を理解し、カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の評価の在り方や方法について考察する。	テキストp.72～p.77 p.107～116	60分
5	道徳科の指導と教材活用	職務の専門性を生かしながら、児童生徒が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	配布資料通読	60分
6	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳授業	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳授業論や授業モデル（動画）から具体的な指導過程を構想し、学習指導案を作成する。	p.78～p.86 授業構想案作成	90分
7	模擬授業の演習と学習指導案の作成	実施した模擬授業について、グループで指導過程、発問構成、板書等を吟味・検討し、学習指導案の見直しを図る。	p.87～p.101 学習指導案作成	90分
8	学習指導案の交流と授業スキルの向上	学習指導案を発表・交流し、道徳授業の指導方法と評価について考察することで、実践的指導力の形成を図る。	学習指導案の吟味・改善	60分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	特別活動・総合的な学習の時間			科目ナンバリング	NTAL43011
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を知るとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習の時間は時代の要請に応じて近年力が入れている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説 高等学校学習指導要領（同）とその解説

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamoto@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

中学校新学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書） 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《備考》

担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
	学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要な知識や素養を理解する。
	総合的な学習/探求の時間における、総合的社会・生活課題探究のための、指導計画作成/指導法/評価を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	40
授業内課題	60
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（1）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容／教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（2）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質／「特別活動」における評価と改善活動	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（3）	集団活動／家庭・地域住民や関係機関との連携	現場が抱える問題を考える	90分
5	総合的な学習（探求）の時間（1）	「総合的な学習（探求）の時間」の意義と役割／学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標及び内容の設定	学習指導要領を読む	90分
6	総合的な学習（探求）の時間（2）	年間指導計画と単元計画についての説明	実践例を調べてくる	90分
7	総合的な学習（探求）の時間（3）	探究的な学習の過程と方法／「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場が抱える問題を考える	90分
8	本授業の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	これまでの授業内容をまとめる	90分
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論		科目ナンバリング	NTAL42007
担当者氏名	吉永 潤		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育方法・技術及び教育評価に関する基礎的理論・概念の理解を踏まえ、現代社会が求める主体的、対話的で深い学びの実現を生む教育方法と技術についての理解、とりわけ情報機器の教育的機能についての理解を深める。以上の上で、学習指導案の作成をグループ作業として体験し、成果を相互に交流・批評する。

《授業外学習》

グループで学習指導案作成を行うため、授業外でのグループワークを要する。

《テキスト》

WEBにて資料配布を行う。

《学習状況・理解度の確認》

各授業後に小レポートを課する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2015

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育方法の基礎的理論を理解し、教育実践での活用が行える。
	現代の教育実践に求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法の重要性を理解し、深い学習と対話的授業の実現のために情報機器の活用方法が理解でき、実践活用できる。
	学習者自身の情報機器活用能力育成と情報モラル形成の意義が理解できる。
	以上を踏まえて学習指導案を構成でき、その相互批評を通じて授業改善の重要性が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業と学びの質を左右する教育方法・教育技術・情報機器活用	授業内容の復習	45分
2	教育方法の基礎的理論と概念	教授と学習、教育方法と教育内容、問題解決学習と系統学習	授業内容の復習	45分
3	現代に求められる教育方法1	知識・理解とその主体的・実践的活用能力の育成	授業内容の復習	45分
4	現代に求められる教育方法2	対話・コミュニケーション能力と協同的問題解決能力の育成	授業内容の復習	45分
5	授業と学習を構成する環境1	学習素材としての教科書、教材、学習者の多様な既有経験	授業内容の復習	45分
6	授業と学習を構成する環境2	情報機器の意義とその活用法	授業内容の復習	45分
7	学習と授業の評価1	教育目標と学習評価の不即不離性、多様な学習評価の考え方と方法	授業内容の復習	45分
8	学習と授業の評価2	学習評価を通じた授業の評価と改善のサイクル	授業内容の復習	45分
9	対話的授業を生む教育方法1	多様性と対話を生み出す教材構成と問い・課題設定	授業内容の復習	45分
10	対話的授業を生む教育方法2	学びを可視化・共有・定着させる板書と情報機器活用	授業内容の復習	45分
11	対話的授業を生む教育方法3	学習者による情報機器活用能力の育成と情報モラルの形成	授業内容の復習	45分
12	学習指導案の開発と交流1	グループ形成、教科選定、教材・指導案構成の話し合い	グループワーク	90分
13	学習指導案の開発と交流2	学習指導案プレゼンテーション1	グループワーク	90分
14	学習指導案の開発と交流3	学習指導案プレゼンテーション2	グループワーク	90分
15	講義全体のまとめ	学習指導案の相互評価と授業全体の振り返りディスカッション	授業内容の全体に関する復習	45分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論		科目ナンバリング	NTAL42008
担当者氏名	根津 隆男		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講者は、学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導は、児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものであることを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》

テキストの生徒指導提要のページをしっかりと呼んでおくこと。

《テキスト》

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》

毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》

子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》

必要に応じてグループワークを実施する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
	全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
	生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	
レポート	30
発表・実技	
授業内課題	30
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60分
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60分
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要P88-89	60分
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要P75-77	60分
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60分
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要P173-174	60分
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要P187-189	60分
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通じた対応策について	生徒指導提要P212-217	60分
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて LD, ADHD, ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要P42-537	60分
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要P75-77	60分
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題（青少年の行動の理解－インターネットと性）	生徒指導提要P178-179	60分
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要P138-141	60分
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規について		60分
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60分
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60分

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）			科目ナンバリング	NTAL41009
担当者氏名	原 志津			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。このことについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をを書いて、最終授業日に提出してください。

《テキスト》

必要な資料は授業時間内に配布する。

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《参考図書》

学習指導要領(文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口・田中 創元社

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
	自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
	子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	65
小テスト	
レポート	20
発表・実技	
授業内課題	
その他()	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しきく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45分
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについての小テスト（30分）、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのにおこる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45分
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45分
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。	配布資料の復習	45分
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45分
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考える。	配布資料の予習と演習の復習	45分
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携-スクールソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	事前事後指導	科目ナンバリング	NTEI43003
担当者氏名	前田 典子・山崎 一諒	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

栄養教育実習の概要を説明するとともに、学校教育における食に関する指導の重要性を確認する。栄養教諭としての専門性の向上及び児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置づけを確認する。事後指導においては、反省点を捉えなおし、知識・技術定着のために課題や問題点を明確にする。

《授業外学習》

実習校への事前訪問、事後訪問も含まれる。事前訪問までに実習校の歴史、規模、教育方針も調べておくこと。予習として、小学校の各学年で習う漢字・書き順を確認しておくこと。復習として研究授業のテーマにふさわしい内容に仕上げしておくこと。

《テキスト》

栄養教諭実習ノートを作成し配布する。

《学習状況・理解度の確認》

事前指導における書類等については、その都度確認を行う。課題については、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《参考図書》

『栄養教育論 理論と実際』金田雅代編著 建帛社

《備考》

将来栄養教諭を目指す学生以外の履修は不可。事後指導は4年次教育実習後に行う。成績の最終評価は教育実習事後指導後に行う。プレゼンテーション、フィールドワークを行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	履修カルテ参照

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	30
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 事前指導①	栄養教諭に向けての心得や授業の内容を理解する。	実習ノートの確認	45分
2	事前指導②	栄養教育実習要領を理解する。栄養教育実習に関する必要書類の確認を行い、実際に書類を作成する。	実習ノートの確認	45分
3	事前指導③	栄養教育実習校への事前訪問の仕方、実習ノート記載方法等学校教育実習に関する注意事項を理解する。	実習ノートの確認	45分
4	事前指導④	学校教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。	実習ノートの確認	45分
5	課題確認①	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	45分
6	課題確認②	学校教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。	レポート作成	45分
7	課題確認③	学校教育実習報告書の作成方法の確認を行う。	レポート作成	45分
8	事後指導①	学外実習の内容を振り返り身についたことを振り返る。	授業内容の整理	60分
9	—	—		60分
10	—	—		60分
11	—	—		60分
12	—	—		60分
13	—	—		60分
14	—	—		45分
15	—	—		45分

《専門教育科目》

科目名	栄養教育実習		科目ナンバリング	NTEI44004
担当者氏名	前田 典子・山崎 一諒・能瀬 陽子		担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

栄養教諭の役割、職務についての理解を深め、栄養教育に必要な知識の向上を図る。実際の学校現場において、児童・生徒に対し食に関する授業研究、生徒指導、学校行事等に主体的に取り組み、体験的学習を深め、栄養教育における実践的な指導力を養う。

《授業外学習》

実習前に実習目標、課題を準備しておくこと。実習時間のみならず、帰宅後にも実習内容は詳細に記録し、実習目標や課題について、可能な範囲で研究・考察を行うこと。

《テキスト》

事前事後指導で配布した栄養教諭実習ノート 必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

教育実習までに課題内容を確認し、わからないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

『栄養教諭養成における実習の手引き』田中信 監修・編著
東山書房

《備考》

事前事後指導に継続する科目である。将来栄養教諭を目指す強い意思のある学生以外の履修は不可。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	栄養教諭としての専門的知識の修得と技術の向上
○	履修カルテ参照	教職に関する実践能力、研究能力及び態度を養う

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	
その他()	40
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	課題確認⑦	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
2	課題確認⑧	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
3	課題確認⑨	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
4	課題確認⑩	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
5	教育実習	実習は、原則加古川市内の小学校で実施し、各実習校における指導教諭の計画に基づく1週間のプログラムで実施する。	課題整理	120分
6	—	—		
7	—	—		
8	—	—		
9	—	—		
10	—	—		
11	—	—		
12	—	—		
13	—	—		
14	—	—		
15	—	—		

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		科目ナンバリング	NTEI44005
担当者氏名	矢埜 みどり・山本 啓子		担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	4 年 ・ II 期

《授業の概要》

教員として学級経営ができる資質や生徒指導の能力を向上させるため、グループ討議やロールプレイによりスキルを身につける。また栄養教諭として、教壇に立つための基本的な教育力を養うため、生徒の食の問題点の調査・分析に基づく模擬授業を実践する。最後に学校現場で、現職教員の学級経営及び授業進行と自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較し、自分にとっての教職の意義及び教員の役割について論じる。

《授業外学習》

学級経営案や授業案など授業時間内では、作成できないため時間外の学習が必要となる。また、学校現場の見学も含まれているため移動時間も必要となる。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

授業最後の今日の講義内容について討議もしくは記録時間を確保する。その内容により必要な説明やアドバイスを行う。

《参考図書》

「学級経営力を高める一感化主義の提唱」堀裕嗣著（明治図書）
「学校栄養教育概論 学校における食の指導」上田伸男編（化学同人）

《備考》

活発な討議により多くの学びが生まれる。教員を目指す者同士、お互いに高めあう気持ちをもって、自分の考えを必ず述べるという意識をもつこと。 実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	栄養教諭として、学校経営を理解したうえで、児童・生徒を指導できる能力及び授業の実践力を身につける
	教職の意義及び教員の役割について認識を深める。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	100
その他（ ）	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	イントロダクション	グループ討議により、学習の振り返りを行いながら、自己の問題点などを認識する。	配布プリントを読むこと	45分
2	教職の意義や教員の役割	教職の職務内容、子供に対する責任などグループ討議を行いながら教職の意義や教員の役割について理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
3	学級経営講義Ⅰ	社会性、対人関係能力、児童生徒理解、学級経営についての理論を理解する。	配布プリントを読むこと	45分
4	学級経営講義Ⅱ	社会性、児童生徒理解、学級経営についてグループ討議を行い他人の考えを傾聴しながら自分なりの考えを整理することができるようになる。	配布プリントを読むこと	45分
5	学級経営講義Ⅲ	学級経営案を作成する力を身につける。	配布プリントを読み返すこと	45分
6	学級経営講義Ⅳ	学級経営案を説明し、意見交換を行い、学級経営についてより理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
7	コーチング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、コーチングのスキルを身につける。	自分で再度実践すること	45分
8	カウンセリング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、カウンセリングのスキルを身につける。	授業計画の原案を考える	45分
9	模擬授業Ⅰ	生徒の食の問題点の調査・分析する力を身につける。	授業の媒体の原案を考える	45分
10	模擬授業Ⅱ	授業計画を立案し、媒体を作成する力を身につける。	細案の原案を考える	45分
11	模擬授業Ⅲ	模擬授業を行い、授業運営について改善点を検討することで、授業運営能力を育てる。	自分の授業について振り返る	45分
12	模擬授業Ⅳ	栄養に関する科目及び事前事後指導の担当教員を含めて、改善した指導案をもとに模擬授業を行い、授業運営能力を身につける。	配布プリントを読むこと	45分
13	学校現場の見学	現職教員の学級経営及び授業進行を見学し、自分の学級経営案・模擬授業と比較し、自分に不足している能力を認識する。	配布プリントを読むこと	45分
14	グループ討議	見学により感じたことについて、グループ討議を行い、どのようにしてその能力を身につければよいか改善策を考えることができる。	配布プリントを読むこと	45分
15	まとめ	自分にとっての教職の意義及び教員の役割についてまとめることにより、これからの教職に対する方向性を自覚することができる。	配布プリントを読むこと	45分